

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	アルケンⅡ		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 2日		～ 令和8年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 9日		～ 令和8年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 18日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	強度行動障害や個別サポートが必要な利用者の受け入れ	利用児の特性や行動等について職員間で話合う時間を設定している。さらに、学校、他事業所と情報の共有を行いながら一人一人の障害特性に合わせた支援が行えるようにしている。	クールダウンや個別対応できるスペースの確保。
2	個々の発達や障害特性に合わせた個別支援計画書の作成	本人や家族の希望をアセスメントしながら少し先の将来を意識し、個別支援計画書を作成している。また支援会議等を定期的に関催することで統一した支援が出来るようしている。	個別支援計画書作成会議に職員が全員参加できる仕組みを作ることで意見交換等をし、統一した支援について活発に話し合いを行ってきたい。
3	放課後にゆったりと過ごし、アットホームな空間でリラックスして活動することができる	子ども達が放課後にほっと一息しながら、安心できる環境づくりを心がけており、活動をつめこまず、その日の体調等を見ながら活動に参加できるようにしている。 また、公共施設や公園へ出かけることで公共のマナーやルールを学ぶこと、身体を動かすし遊ぶことでリフレッシュできるようにしている。	その日の子どもの様子を確認し、お出かけ組と部屋で過ごす組を分けその日の子どもにあった対応をできるようにしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ワンフロアでの活動なので、クールダウンや思いっきり体を動かす個別等のスペースが生活介護事業所と共有スペースになっている	事業所を建てた時にそこまでの必要性を感じなかったのかもしれない。	パーティション等を用いて個別スペースの確保をしていく。
2	地域との交流が少ない	イベントの情報収集が十分でない。 資格者の人員確保が難しく研修等への参加が少ないのが現状としてあり他の事業所等との情報共有が少ない。	近隣の学校や施設に積極的に赴き交流できるよう働きかける。 地域のイベントスケジュールや公共施設で行われている活動を把握し日程調整を行い行事に参加できるよう検討をする。
3			